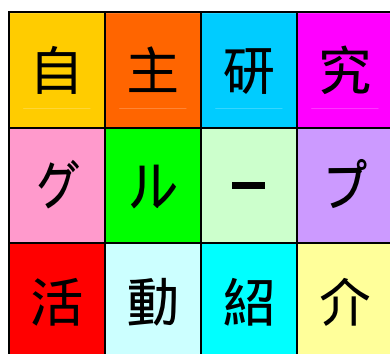


## 八王子市役所職員の能力開発



本市では、職員の自己啓発支援の一環として、市政を取り巻く課題などについて調査研究するグループ活動を支援しています。

総務部職員課人材育成担当

地方分権が進展する中で、自治体自らが政策責任の主体となって、多様化する住民ニーズにこたえていくことが求められています。このため、自治体職員に求められる能力・役割は変化し、従来の公務員の枠にとらわれない柔軟な思考で、自ら課題を認識し、解決できる自立型の職員を育成していくことが自治体における重要な課題となっています。本市では、平成13年に人材育成基本方針を定め、『人事制度』、『職場づくり』、『研修制度』を一体として、職員の育成に取り組んできています。

ここで紹介する自主研究グループ活動への助成制度( )は、研修制度の要の一つである自己啓発への支援です。この制度は、制度を設けて以来延べ44グループ307名の職員が参加してきました。ここ数年は、新人職員のグループが自身の業務の枠を超え、市の現状や課題を幅広く学ぼうという勉強会を行っている傾向がみられます。また、自らの業務を深く調査研究することで、業務への精通やスキルアップを図ろうとする活動も行われています。

平成19年度は、これから紹介する7つのグループが活動を行いました。

グループ名	テーマ
基礎職務能力の向上を目指す会 2007	自治体職員に求められる基礎職務能力の向上について
保育士スキルアップの為の勉強会	相談スキルをアップさせる
食育研究会 2007	食育推進状況の情報収集と意識調査の実施
介護保険制度研究会	高齢者福祉のあり方について 先進自治体に学ぶ
マップ作成プロジェクト (遊歩まっぷ倶楽部)	過去に無い視点からのマップ(アトラス)作成・情報収集
福祉制度研究会	福祉制度の理解
Nvalue on ざっくばらん	市の施策の現状把握と課題発見、今後の展開

### ( )自主研究グループ活動助成制度とは

市政の様々な課題について自主的に調査研究を行う3名以上の職員のグループ活動を支援し、自己啓発意欲の高揚や政策形成能力の向上を図ることなどを目的としています。助成の対象は、図書などの購入費や指導・助言者に対する謝礼などです。また、平成17年度からは、都市政策アドバイザーから活動内容に対する助言を受けられるようになっています。

### //// 人材育成担当の思い //////////////////////////////////////

日々の業務の中で、疑問に感じたり、もっと深く学んでみたいと思ったりすることは誰にでもあるでしょう。こうしたことを疑問や興味に終わらせず、一歩踏み出して自ら学び、行動し、業務改善につなげることで、また、そうした主体性をもった職員に育つことを、人材育成担当は応援しています。

# 基礎職務能力の向上を目指す会 2007

代表：総務部法制課 原 清

## 研究目的

当会は、第1に地方自治の諸分野に関する知識を深めること、第2に政策形成や事務改善を行う上で不可欠な基礎職務能力（文献・資料を的確に要約する能力、所定の条件で分かりやすくプレゼンテーションする能力、文献・資料および他者の意見に対する的確にコメントする能力など）の向上を目的としています。

## 研究内容

地方自治や行政に関連した図書を精読の上、レポートを作成し、月1回開催する勉強会にて発表、意見交換を行っています。勉強会当日には、座長の財団法人日本都市センターの中西規之研究員、及びアドバイザーの政策審議室の木内主幹からの、参加者の発言に対する説明やコメントを交えて議論することで、より理解を深めていく仕組みとなっています。

このような活動を通じて、より広い知識と職務能力の習得に向けたトレーニングをすることは、基礎職務能力の向上につながるものと考えています。

課 題 図 書	開 催 日
『自治体をどう変えるか』（ちくま新書）佐々木信夫	平成19年9月7日
『今、なぜ地方分権なのか』（実務教育出版）西尾 勝・新藤宗幸	平成19年10月5日
『夕張破綻と再生 財政危機から地域を再建するために』（自治体研究社）保母武彦	平成19年11月2日
『自治体のアウトソーシング』（学陽書房）今井 照	平成19年12月7日
『人が育つ会社をつくる キャリア創造のマネジメント』（日本経済新聞社）高橋俊介	平成20年1月11日
『元気な自治体をつくる逆転発想の人事評価 岸和田方式「人材育成型」制度のつくり方と運用法』（ぎょうせい）小堀喜康	平成20年2月1日
『分権時代の広聴入門 理論と実際』（ぎょうせい）土橋幸男	平成20年3月7日

## 代表者コメント

今年で3年目を迎える当会の特色は、一般職員だけでなく、外部のシンクタンク研究員や市の管理職が座長やアドバイザーとして参加しているところにあります。これにより様々な視点から課題についての意見交換が可能となり、議論を深めることができます。

また、勉強会終了後に毎回開催している懇親会は、年齢や所管も異なる職員同士が意見を交えることのできる有意義な場となっています。

**地方自治職員研修 臨時増刊号 87 『自学するヒト・自学する組織』（公職研）の中で、当会の取り組みが紹介されました。**

## メンバー紹介

所 属	名 前	所 属	名 前
法制課	原 清	観光課	竹内 均
法制課	浅野 菜摘	産業政策課	柳沢 盛仁
法制課	金子 正明	協働推進課	立川 寛之
税制課	谷 靖之	学園都市文化課	吉岡 淳二
税制課	小杉 浩文	建築課	水島 彩子
税制課	竹之上 義浩	障害者福祉課	清水 雅生
政策審議室	元木 博	市民課	伊藤 光代
職員課	田中 寿定	市民総務課	畑嶋 怜子

---

---

# 保育士スキルアップの為の勉強会

代表：こども家庭部子ども家庭支援センター 遠藤 由実子

---

---

## 研究目的

民間保育園との交流を図りながら、地域における子育て相談のスキルを高める為により多くの知識を幅広く身につけることを目的にしています。

## 研究内容

今年度は、講師を招いて具体的なお話を頂きつつ、研究の内容を深めました。

- ・虐待発見のポイント・・・・・・・・・・子ども家庭支援センター相談員 松井 利恵氏
- ・保育で活かせるパネルシアターの実演・・・公立保育園保育士
- ・乳幼児の運動発達・・・・・・・・・・リトルジャンボスポーツクラブ健康指導士 田口 ゆう子氏
- ・養育家庭で育つ子ども達への理解・・・・・・・・養育家庭・『ぶどうの木』著者 坂本 洋子氏
- ・よりよい親子関係を築く為に・・・・・・・・・・親業訓練インストラクター 西川 要子氏
- ・愛着行動について・・・・・・・・・・目白大学人間学部准教授 加藤 尚子氏



## 代表者コメント

今年度は民間保育園（4園）が本勉強会に参加しました。民間・公立の保育園職員の交流を通じ、お互いにスキルアップできたことは大きな成果だと考えています。

また、今年度は講師を招き、子どもと家庭への支援方法や関わり方を具体的に学んだところ、研究会のメンバーから「現場で実践したら、効果があった」との声が寄せられています。

このように、学んだことを実践できる職員が増えてきたことも勉強会の大きな成果です。来年度は、同じ内容の連続講座を企画し、より深く学んでいきたいと思えます。

## メンバー紹介

所 属	名 前	所 属	名 前
中野保育園	前田 嘉子	静教保育園	高橋 美智子
中野保育園	相川 勝吾	元八王子保育園	井上 文子
中野保育園	田中 美香	子育て支援課	峰尾 真弓
長房中央保育園	田中 かほる	子育て支援課	福島 光子
長房中央保育園	伊東 利恵	子育て支援課	杉本 浩恵
長房南保育園	早川 歌代子	子ども家庭支援センター	遠藤 由実子
石川保育園	柏葉 ヨシ江	子ども家庭支援センター	畑中 祐子

# 食育研究会 2007

代表：健康福祉部生活衛生課 加納 亜友美

## 研究目的

私たちは、「食」に関係する事業を市民のQOL（生活の質）向上の重要な柱と考え、八王子市で食育を推進していくための研究グループです。

## 研究内容

### 八王子市における「食」の取り組みについて把握する

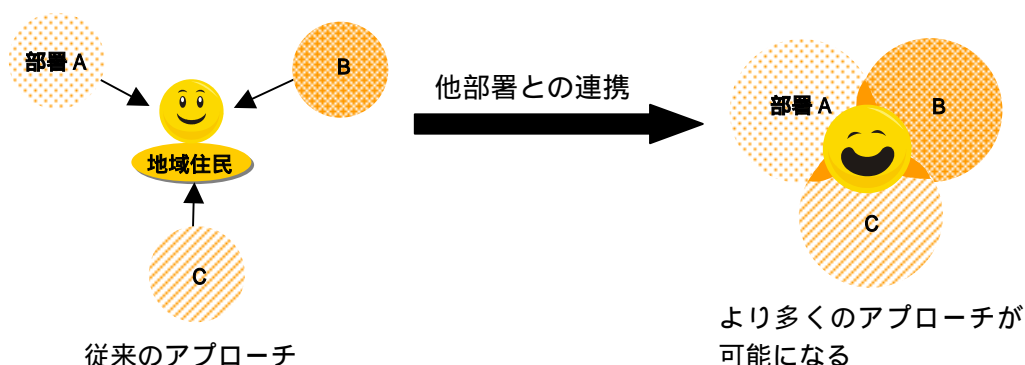
まず、以前より各部署で行われている食事業を調べて把握することから始めました。一見、食とは直接関わりのないような部署においても取組事例があることがわかり、調査範囲を広げて調べました。

### 食を通じた他部署との連携について考える

市民サービス向上のためには、食を通じて役所内の部署が連携することは有効かつ効果的であり、各部署の食に関連する事業を踏まえた上で、自分の部署と連携させて新たにできることはなにかを検討しました。

### 本研究を通して他部署との交流を図る

食育が定まった部署だけの事業に留まらず、いろんな部署に広がっていくためには、食に興味のある方に集まっていただき交流を深めることが大事であると考え、結成にあたり様々な部署に声をかけました。今後外部講師による勉強会も予定しているので、広く周知して参加を呼びかけたいと考えています。



## 代表者コメント

食は私たちの日常生活に深く密着しており、肉体的・精神的に健康な身体を保つための大切な源です。

「食」は毎日の健康的な生活へ通ずる」をキーワードに、私たちの研究グループでは、八王子市がより活性化するための一手段として、食を通して市民の皆さんが元気に健康的に生活できるよう研究を進めています。

## メンバー紹介

所 属	名 前	所 属	名 前
元八王子保育園	井上 文子	生涯学習総務課	武藤 浩宜
千人保育園	吉野 幸子	協働推進課	村石 英里
みなみ野保育園	水越 洋子	長房中央保育園	青木 啓輔
学事課	国分 恵子	長房中央保育園	茂 真由美
保健センター	渡辺 静江	子育て支援課	今井 千里
生活衛生課	山崎 百合子	生活衛生課	加納 亜友美

---

---

# 介護保険制度研究会

代表：健康福祉部介護サービス課 名前 濱 大育

---

---

## 研究目的

私たちは、介護保険制度改正後の高齢者福祉において自治体が担うべき役割を考えることを目的に、昨年度より活動を開始しています。

昨年度は、制度改正により設置された「地域包括支援センター」(以下「包括」)を主な研究対象として研究し、地域ケアシステムの中心的な担い手である「包括」の様々な問題や、「包括」が抱える問題への自治体の対処方法(あるいは、その前提にある自治体の描く「包括」像)が自治体によって大きく異なっていることが確認できました。

本年度は、昨年度の研究の発展として、「八王子市が目指すべき方向」を考察することを目的に活動しています。

## 研究内容

研究内容は、「包括」と「自治体職員の専門性について」の2点を中心です。

### 1. 地域包括支援センターの担うべき役割について

#### (1) 共通テキストの輪読・講演会への参加

新予防給付や地域支援事業が創設される前から自治体職員として介護予防に取り組んでいる、和光市長寿あんしん課課長補佐の東内京一氏による『これからの介護予防・地域ケア』を共通テキストとして使用し、また、大阪市立大学大学院白澤政和教授の講演会に参加しました。以上の活動は、介護予防や地域ケア、「包括」に関する基礎知識、最新の「包括」が直面する課題、今後の介護保険制度も含めた高齢者福祉の動向等の理解を深めることを目的としています。

#### (2) 埼玉県所沢市役所への訪問調査

本年度は所沢市へ訪問調査を行ない、所沢市の「包括」の現状・課題等を伺いました。本調査で特に印象的だったのが、所沢市は、市として「包括」の業務に明確な優先度をつけている点でした。「包括」の業務は多岐に渡っていますが、人的資源が限られている中では、本市を含めて要支援者のケアプラン作成に追われ、また、なかなか成果が見えてこない介護予防等の地域支援事業に頭を悩ませている自治体が多いと言われています。その中で所沢市は、むしろ総合相談支援や権利擁護事業に大きな重点を置き、人的資源を集中させていました。

今後、以上の点も含め、前年度に行った稲城市・新宿区の調査と比較しながら、自治体の関わり方・理念が、高齢者の地域ケアシステム構築に大きく影響していることを明らかにし、八王子市が目指すべき方向を考察していきたいと思っています。

### 2. 自治体職員の専門性について

「包括」に関する問題を議論していく中で、自治体職員に求められる専門性について考えなくてはならないと思うようになりました。高齢者福祉の分野に限らず、自治体に求められる役割が専門化・高度化している中、各自治体で職員の専門性をいかに高め、その専門性を組織的にいかに維持していくかが、大きな課題なのではないでしょうか。

そこで、この一環として日本社会事業大学福祉従事者専門講座「“実戦力”を高めよう」に参加するとともに、風間規男編「行政学の基礎」、自治体学会編「私の現場主義」を各自通読して、議論を行いました。

## メンバー紹介

所属	名前
介護サービス課	濱 大育
介護サービス課	服部 真治
介護サービス課	芝田 崇

---

---

# マップ作成プロジェクト（遊歩まっぷ倶楽部）

代表：産業振興部 小林 隆宣

---

---

## 研究目的

「遊歩まっぷ倶楽部」では、八王子の魅力ある地域（エリア）にスポットをあて、職員が自ら歩き、調べ、その土地の歴史や言い伝え、史跡や四季を感じさせてくれる風景などをマップにまとめ、「遊びながら、楽しみながら、持って歩いて読める！手軽な散策マップ」づくりをめざしています。

将来的には、地域ごとに作成したマップをまとめて、1冊のアトラス（地図帳）に進化させたいという目標を持っています。

## 研究内容

私たちは平成16年度から活動をはじめ、「南浅川遊歩まっぷ」、「八王子城跡遊歩まっぷ」、「千人同心遊歩まっぷ」に続く第4弾として、「川口遊歩まっぷ」の作成を今年度のテーマとして取り組んでいます。

川口地区は、由緒ある歴史を背景に、豊かな自然の里山風景が今も見られ、今熊神社をはじめとした数多くの寺社や石仏、古道などが人々の生活と歴史や信仰が一体だったことを感じさせてくれるエリアです。また、明治口マン主義文学の旗手として活躍した北村透谷は、美しい自然と人情に感動して川口の森下の集落を「幻境」と呼び、地元川口地区の有志によって建立された「幻境碑」からは今も、当時の自由民権運動の高揚が伝わってきます。

今年度は、川口地区の住民の方々から「ぜひ川口地区のマップを作ってほしい」との要望もあり、地元の方々から貴重なお話や写真、資料の提供などのご協力をいただきながら、地域と連携した活動を行っています。

グループのメンバーは、観光課の職員を中心に、地域の魅力の発掘に熱意あふれるウンチク好き(?)な職員で構成されています。メンバー同士が休日に集まって、川口地区からあきる野への実施踏査を行いました。長安寺の高台から望む丘陵一面に広がる紅葉のすばらしさ、滝ノ沢から天合峰の神秘的な景観などなど…まさに「八王子の魅力・再発見!」といった感じでした。

今熊山からあきる野へ続く見どころ情報も紹介し、あきる野市でのマップの配布も想定するなど、広域的なマップづくりも視野に入れていきます。

とにかく今回は、八王子の中でも、あまり知られていない川口地区の奥深い魅力とパワーを1枚のマップに凝縮し、情報を発信する予定です。

このマップを片手に、多くの方々いろいろな散策ルートを楽しんでいただき、地域の活性化に少しでも役立てていただければと思っています。

## 代表者コメント

この遊歩マップ倶楽部が発足して3年半。自主研ならではの自由で遊びの要素ありの活動で、これまで3つのマップを作成し、八王子の魅力の発信に寄与しています。興味のある方は、ぜひご参加を。

## メンバー紹介

所 属	名 前	所 属	名 前
産業振興部	小林 隆宣	観光課	原田 親一
元八王子事務所	山崎 啓右	観光課	平本 博美
水道部業務課	鈴木 啓二	観光課	森田 隆俊
産業政策課	鈴木 泰	観光課	木村 一成
産業政策課	小山 美紀子	観光課	福島 絵美
こども科学館	森 融	観光課	小林 望美
子ども家庭支援センター	鮫島 四男		



# 福祉制度研究会

代表：健康福祉部生活福祉課 諸角 英一

## 研究目的

当研究会は、市の行っている福祉制度についての理解を深めるために集まった、平成18年度・19年度採用の職員の自主研究グループで、活動の目的は以下の3点になります。

1. メンバーそれぞれが職員としてのレベルアップを図る。
2. メンバーが所属する部署で取り扱っている業務の内容・問題などを、部署の垣根を越えてグループ全体で共有する。共有した知識をまとめ、福祉関係部署間の連携・協力で役立つ冊子を作成する。
3. 「連携の良い福祉サービス」を提供できるように、現在の福祉サービスの問題点を発見、改善することを目指す。そのために、部署の連携が必要な問題に協力して取り組むことを目的とするネットワークを構築する。

## 研究内容

(活動実績)

メンバーの所属部署が日々どのような業務を行っているのか知り、それぞれの業務の基礎知識を共有することを目指して、グループ内での発表を月に2回のペースで行いました。

発表の方法は、毎回二人ずつ担当を決め、研修メンバーそれぞれが行っている業務の内容をレジュメにまとめて発表し、質問、意見・情報交換を行うというものです。主に本庁の会議室を借りて研修会を行っていますが、12月には、本庁を飛び出し、八王子市保健所の講堂を借りて、保健所業務について職員の方に説明していただくこともありました。

(今後の活動予定)

これまでの発表で共有した業務の基礎知識を踏まえ、福祉関係の部署が連携する上での問題点を具体的にあげ、「見える化」することで、よりよい連携についての検討を進めていきます。

具体的には、相手の業務内容を知らないために生じる問題、連携がないために生じる問題、連携がある中でも上手くいかない問題について、検討・発表を行っていく予定です。

## 代表者コメント

社会人一年目で、日々の仕事で精一杯ですが、自分の担当している分野だけでは解決できない問題も多くあるように感じています。市民に対して適切なサービスを行うには、部署を横断するネットワークの強化が効果的なのではないでしょうか。

福祉の業務について相互に学ぶことで、部署間の連携が必要な問題に対してスムーズな対応ができるように、自主研修グループを活用していきたいと思えます。



## メンバー紹介

所属	名前	所属	名前
生活福祉課	諸角 英一	障害者福祉課	水野 久子
高齢者相談課	杉山 浩一	生活衛生課	新井 久美子
指導室	越智 博明	国民健康保険年金課	新野 公仁子
児童青少年課	山田 友索	介護サービス課	高久 ももこ
学事課	額田 岳	子育て支援課	石森 紗也香
地域医療推進課	濱中 良哉	保健センター	今井 瑞絵
子育て支援課	大竹 南生		

---

---

# N value on ざっくばらん

代表：市民部市民課 伊藤 光代

---

---

## 研究目的

1年目の活動で得られた市政理解と同期の交流をベースに、「魅力ある市政のためには何が必要か」との問題意識や視点を養うことを目的として2年目の活動を進めてきました。

更に、財政や議会について学ぶ機会や雑誌の読み合わせを通して、自治体職員として基礎的な知識を学ぶ機会もつくり、市政に関するディスカッションが現実性のある討議・提案につながるよう努めました。

## 研究内容

月に1回ずつゆめおりプラン会（市政に関する理解・問題意識を深める会）とざっくばらん会（各自の職場の交流を通して仕事の向上を考える会）を交互に行う1年目のペースを保ちながら、各回の内容が深まりながら連続性を持たせられるよう工夫しました。

具体的には、1年目は担当者が研鑽してきた成果をプレゼンテーションすることが中心であったのに対して、本年は毎回テーマを設定し、各自の視点や調べてきたことをレジュメにした上で、それらをもとにテーマを掘り下げる討議に重点を置いて行いました。

### <ゆめおりプラン会>

今年度の前半は1年目に取り上げた、市民協働、福祉、文化、まちなみ整備（バリアフリー）環境（ごみ減量）の5つのテーマに加え、少子化、まちづくり（南口再開発）、産業（絹織物）国際化の4つのテーマについて討議を行いました。

今年度の後半は、9つのテーマのうち八王子市が「子育てしやすいまち 1」を目指していることから特に少子化問題に光を当て、少子化問題の背景、八王子市における現況、子育て応援企業などの民間の取り組み、などについて知識を得た上で、行政として子育て支援にどのように関わることができるかについて、複数回にわたり検討しました。

### <ざっくばらん会>

各回の前半は、主に各自の職場の様子を報告しながら、2年目の課題などについて話し合いました。後半は、年間購読している雑誌の中から、財政、議会、人材育成、広域行政、などのテーマに関する記事の読み合わせを行ない、知識の習得や意見の交換を行いました。

## 代表者コメント

メンバー一人ひとりの熱い思いがN（network、next、new...）valueを生み出す会にとの願いがグループ名称の由来です。

新鮮な気持ちを忘れずに、生みの楽しみを感じられる毎回の勉強会を目指し、活動しています。

## メンバー紹介

所属	名前	所属	名前
学事課	額田 岳	市民課	伊藤 光代
生活福祉課	岸中 孝一	子育て支援課	大竹 南生
地域医療推進課	濱中 良哉	ごみ減量対策課	前川 健一
国民健康保険年金課	森 喜彦	児童青少年課	山田 友索
恩方保育園	市村 友美	石川保育園	宮口 優
財政課	宮本 洋子	資産税課	唐沢 洋平
高齢者相談課	杉山 浩一		